

20260302

中国四国Jークレジット制度オンライン勉強会

# 雲南市脱炭素社会実現プロジェクトと 水稲の中干し延長の取組

2025年度

雲南市

(市民環境部環境政策課・農林振興部農業総務課)

# 目次

1. 雲南市の概要と脱炭素プロジェクト
2. 脱炭素社会実現計画
3. 全体を支えるしくみ
4. 中干期間延長の取組

# 1. 雲南市の概要



全国最多の39個の銅鐸が出土  
(加茂岩倉遺跡・銅鐸は国宝)



【日本さくら名所】斐伊川堤防桜並木



たたら製鉄の遺構; 全国唯一の現存する高殿  
(菅谷たたら高殿)



スサノオノミコト、クシイナダヒメが造ったとされる  
「日本初之宮」須我神社・和歌発祥の地

# 1. 雲南市の概要

## 平成16年 6町村で合併

面積	5 5 3.2 k m <sup>2</sup>	(東京23区の約9割)
人口	3 6,0 0 7 人	(R2国勢調査)
高齢化率	4 0.1 %	( " )
世帯数	1 2,4 3 2 世帯	( " )

- ▶ コウノトリが、9年連続で巣立つ R7は3巣塔8羽
- ▶ **市民が主役・協働のまちづくり** (活発なコミュニティ)
- ▶ **チャレンジに優しいまち** (チャレンジ推進条例)  
…子ども×若者×大人×企業チャレンジ



企業チャレンジ推進中\_連携協定締結数 **15** 社 (2026.2月末現在)

…コミュニティも連携



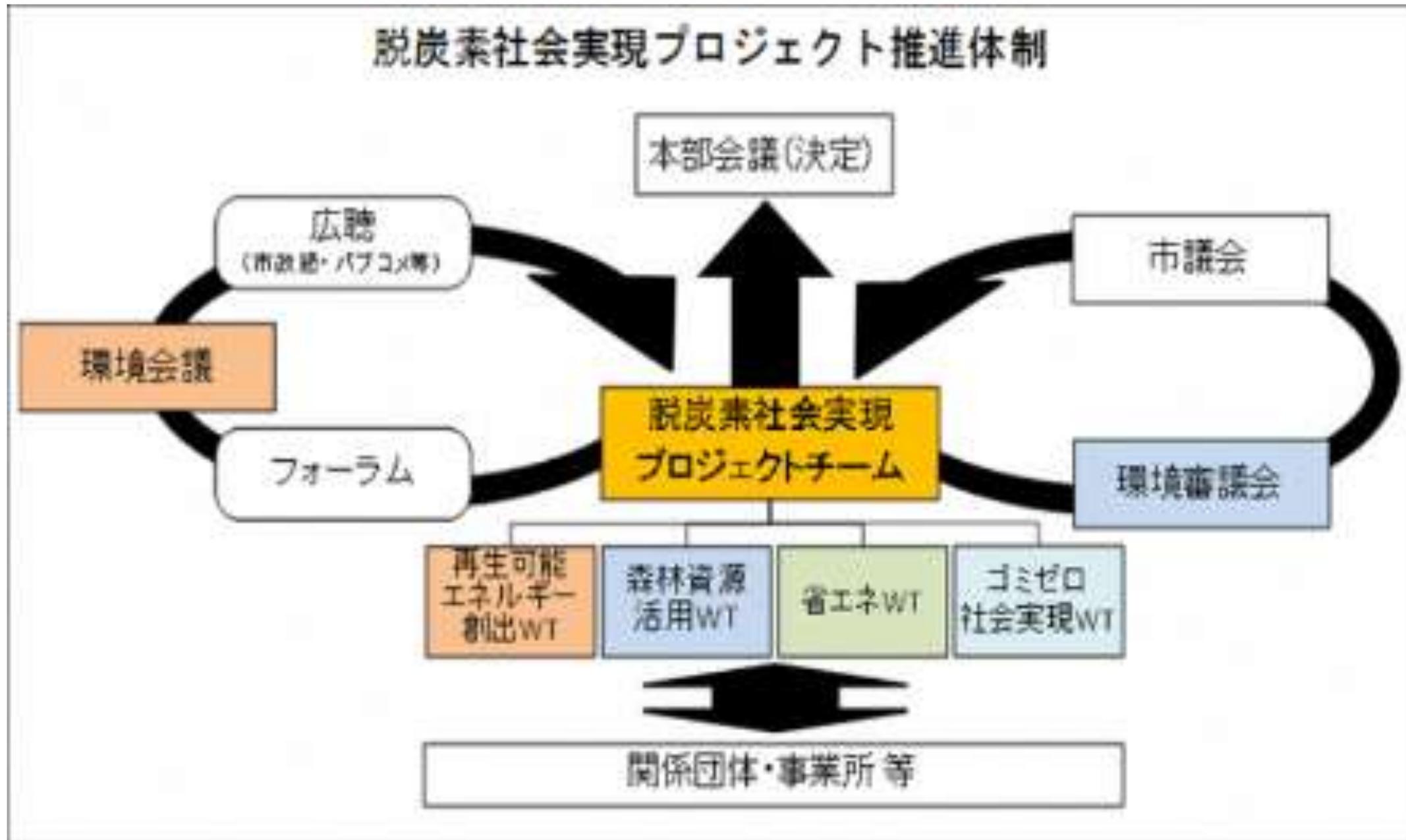
# 1. 雲南市脱炭素社会実現プロジェクト

2022年始動

■ **目標** 2050年までに脱炭素社会を実現

## ■ **前提**

- ・ 市民、事業者、行政が協働で
- ・ 市長トップの本部会議のもとに副市長トップのプロジェクトチームを設け、全庁体制で推進
- ・ 事務局体制を強化（専任者と他部局からの兼務辞令） ※R7年度より、農業総務課長兼務



## 2. 雲南市脱炭素社会実現計画:目標と基本コンセプト

2022年6月 雲南市脱炭素宣言  
2023年3月 「雲南市脱炭素社会実現計画」策定  
2025年3月 「第3次雲南市総合計画」策定

### ■目標

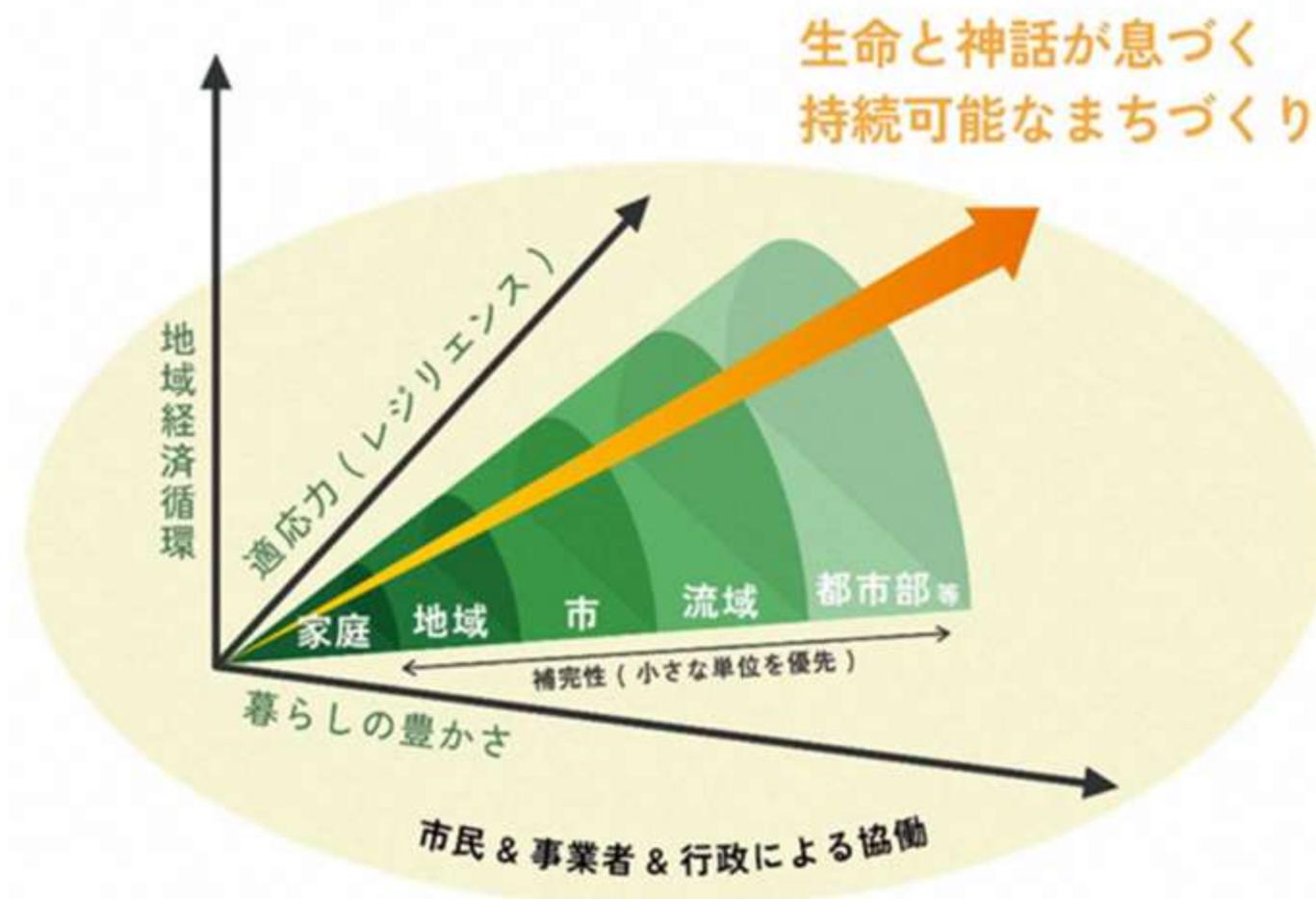
- 2050年までに、**温室効果ガス排出量実質ゼロ**
- 2030年までに、温室効果ガスの排出量55%削減 (2013年度比)

### ■基本コンセプト

『生命と神話が息づく 持続可能なまちづく』

1. 暮らしの豊かさの向上
2. 適応力 (レジリエンス) の向上
3. 地域経済循環の向上

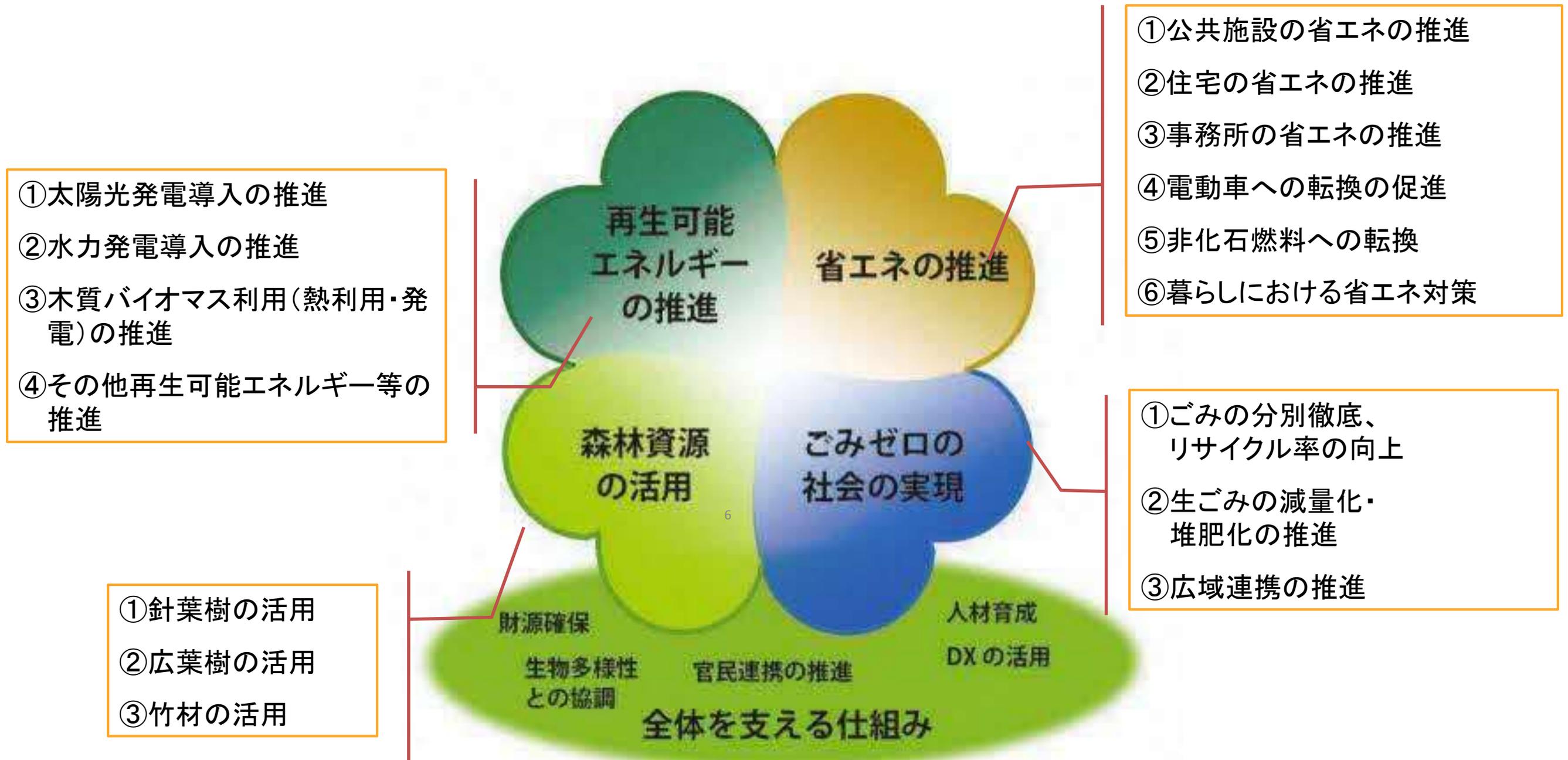
これら3つの柱を  
補完性の原則に基づき展開



※補完性の原則:協働によるまちづくりの必要な要素で、小さな単位を優先し、より大きな単位が補完するというもの

## 2. 雲南市脱炭素社会実現計画:計画内容(1/2)

再生可能エネルギーの推進、省エネの推進、森林資源の活用、ごみゼロ社会の実現の4つのプロジェクトを全体を支える仕組みと有機的に連動させ推進



～市民・事業者・行政が一体となって推進～

フォーラムや環境会議等を通じて情報共有

近隣、及び斐伊川流域の自治体等と連携

地域自主組織単位を中心としたコミュニティ単位を基本に

環境会議などを通じて人的ネットワークの構築

### 3. 全体を支えるしくみ

- ① 財源の確保
- ② 人材育成
- ③ 官民連携の推進
- ④ 生物多様性との協調
- ⑤ DXの活用

#### 廃食油回収の取組

→高純度バイオディーゼル燃料を精製

#### 【期待する効果】

ごみの減量化・リサイクル率の向上→非化石燃料への転換



人材育成事業(多世代交流)



R7年6月30日 カナツ技建工業株式会社(松江市)と連携協定締結



企業と連携し、市内の中学校で  
出前講座を実施

### 3. 全体を支えるしくみ（人材育成）

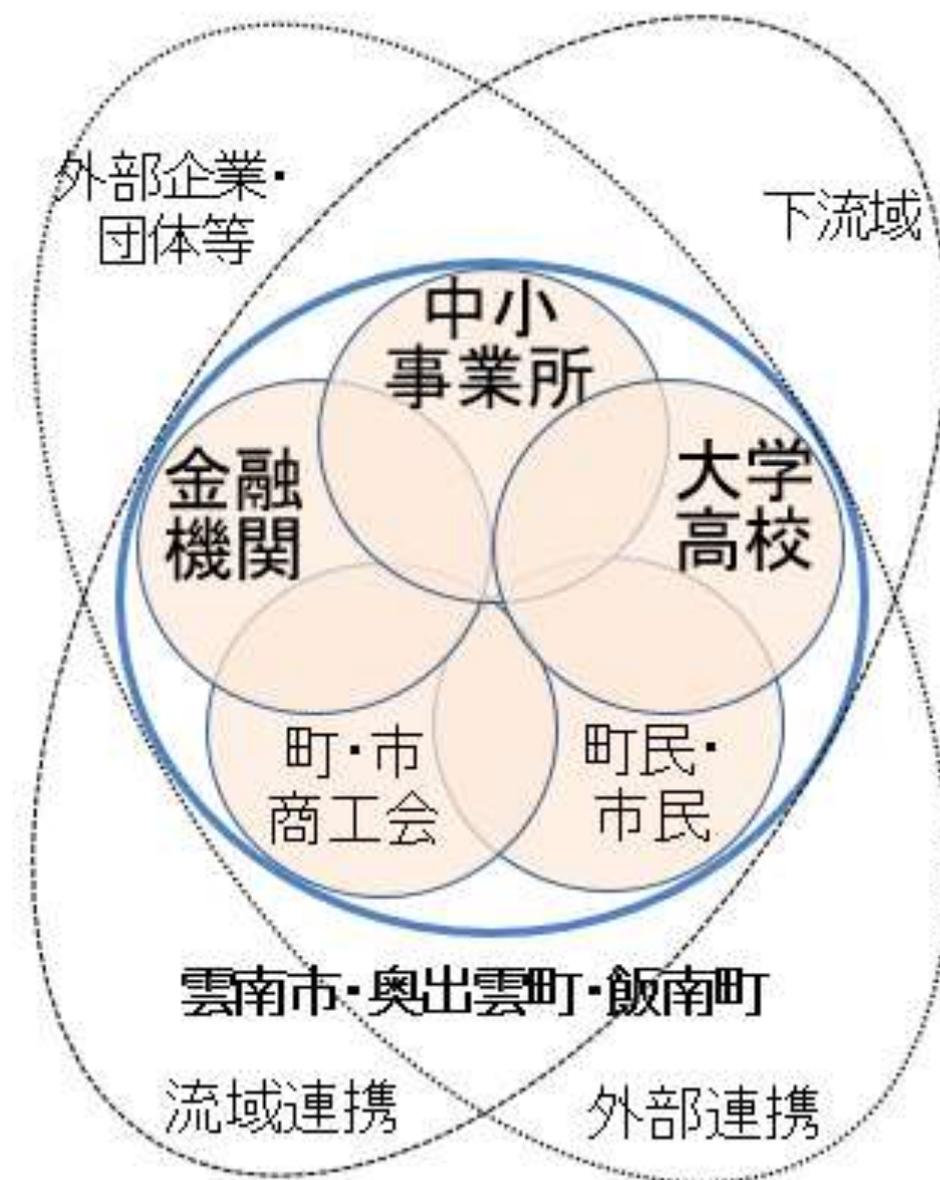
## 斐伊川流域脱炭素推進コンソーシアム

### 脱炭素経営に取り組む事業者の支援と、脱炭素分野の人材育成を実施

- 目的：脱炭素社会の推進
- 事業：情報交換、学び合い、人材育成等
- 構成員：雲南市商工会、島根県中小企業団体中央会  
大東高校、三刀屋高校・掛合分校、  
島根大学、島根県立大学、奥出雲町、飯南町
- 事務局：雲南市と金融機関の合同事務局
- 発足日：R6年7月31日

#### 【ポイント】

- ・ 中小事業所等の取組みを官学金民により包括的に推進
- ・ 高校生や大学生の人材育成を絡め、持続可能な取組に



### 3. 全体を支えるしくみ（人材育成）



フォーラム



竹炭づくり体験

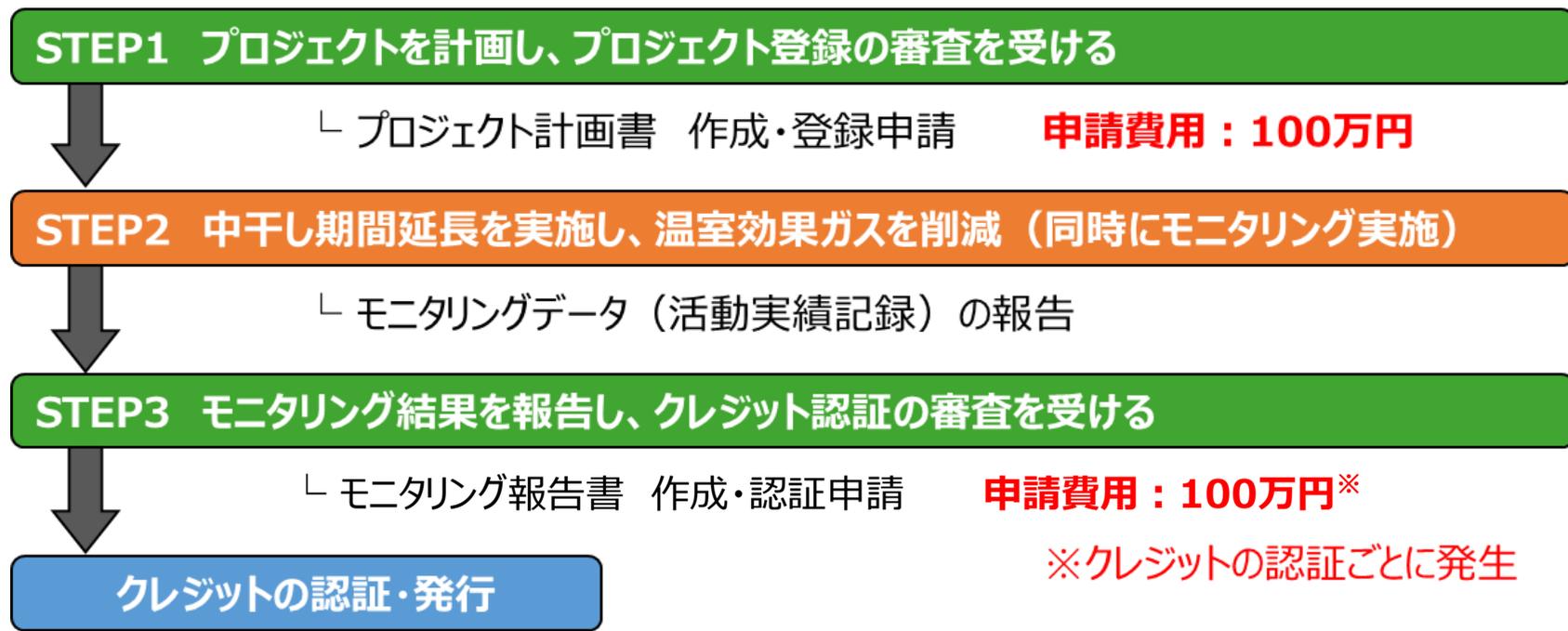


各地域での学習会



多世代交流

# 4. 中干期間延長の取組

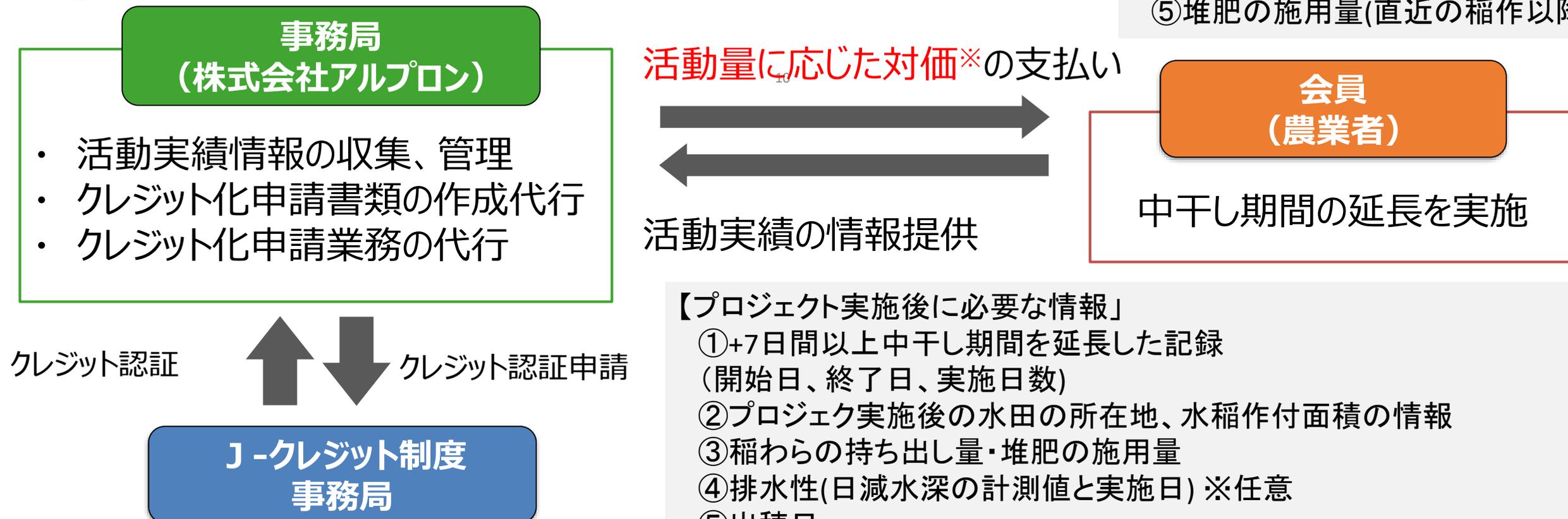


### 【プロジェクト実施前に必要な情報】

- ①参加同意書
- ②過去の中干しの実施日数  
(直近2か年分の記録)
- ③水田の所在地、水稲作付面積の情報
- ④稲わらの持ち出し量(直近の稲作分)
- ⑤堆肥の施用量(直近の稲作以降)

- 削減量をクレジット化するまでの申請業務をアルプロンが代行。
- 申請にかかる費用についても、アルプロンが負担。

### <概念図>



### 【プロジェクト実施後に必要な情報】

- ①+7日間以上中干し期間を延長した記録  
(開始日、終了日、実施日数)
- ②プロジェクト実施後の水田の所在地、水稲作付面積の情報
- ③稲わらの持ち出し量・堆肥の施用量
- ④排水性(日減水深の計測値と実施日) ※任意
- ⑤出穂日

## 4. 中干期間延長の取組

### 農家さんからいただいた主なご意見 (一部抜粋)



- ・提出書類の作成は手間？
- ・すべての田んぼの水の状態を毎日管理しないといけないの？

環境に配慮した米作りは、  
国からの活動支援もあり、  
これから時代あたり前になっ  
ていくと思う



中干し期間延長に取り組んで得られ  
る収益より、できたお米を環境付加  
価値米として、高く買ってほしい



# 4. 中干期間延長の取組

## Jクレジットと日本型農業直接支払制度

日本型農業直接支払制度は、環境保全型農業直接支払制度・多面的機能支払制度・中山間地域等直接支払制度で構成される農村・農業振興にかかわる制度。

令和7年度に制度改正があり、取組の変更拡充・移管等が行われる。

### 環境保全型農業直接支払

生産方式  
に着目

自然環境の保全に資する生産方式を導入した農業生産活動を推進するため、活動の追加的コストを支援

化学肥料・化学農薬の5割低減する取組と以下の取組を併せて行う

有機農業  
堆肥の施用  
緑肥の施用  
総合防除  
炭の投入

### R7変更点

一部取組について作付けする作物が水稲である場合、メタン排出抑制取組(長期中干し、秋耕)を追加して行わなければならない

### 多面的機能支払

活動内容  
に着目

【農地維持】農地の多面的機能を維持するための共同活動を支援  
【資源向上】地域資源(水路農道等)の質的向上に係る共同活動を支援

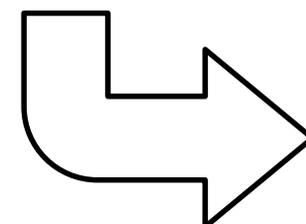
**R7変更点** 加算取組として環境負荷低減の取組が追加・拡充された (環境保全型農業直接支払から移管)

長期中干し 中干しの延期  
冬季湛水 江の設置  
夏季湛水 (作溝・未作溝)

### 中山間地域等直接支払

対象地域  
に着目

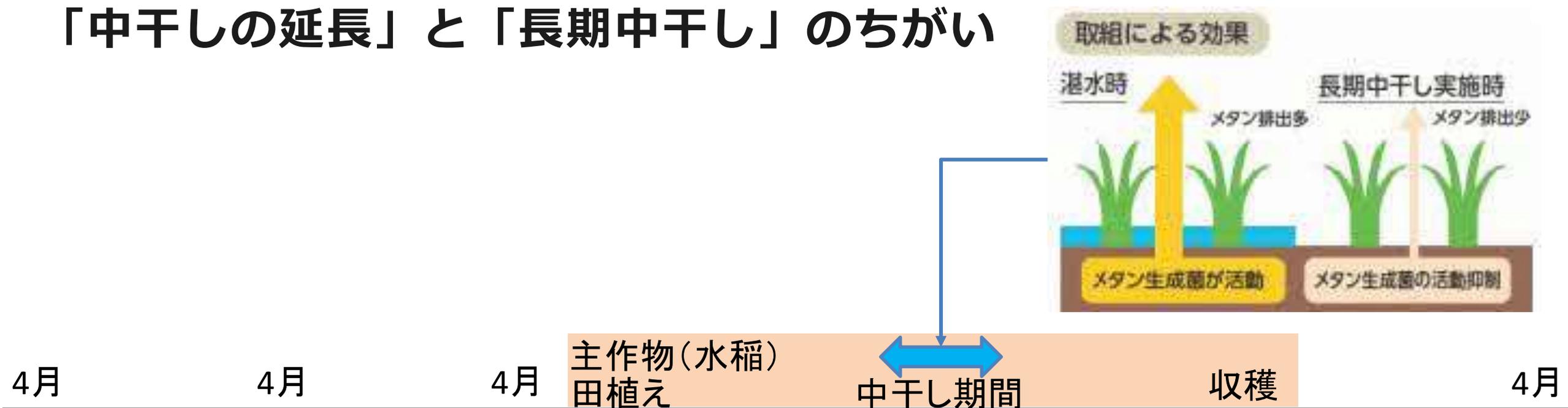
中山間地域等において、農業生産条件の不利を補正し、農業生産活動の継続に向けた活動を支援



温室効果ガス抑制の取組が拡充  
Jクレジット制度と併用が可能

## 4. 中干期間延長の取組

### 「中干しの延長」と「長期中干し」のちがい



日本型直接支払の「長期中干し」とJ-クレジットの「中干しの延長」

- ・中干し開始日と終了日の考え方は同じ
- ・要件となる **中干し期間** の考え方が違う

#### ●J-クレジット 「水稻栽培における中干し期間の延長」の中干し期間

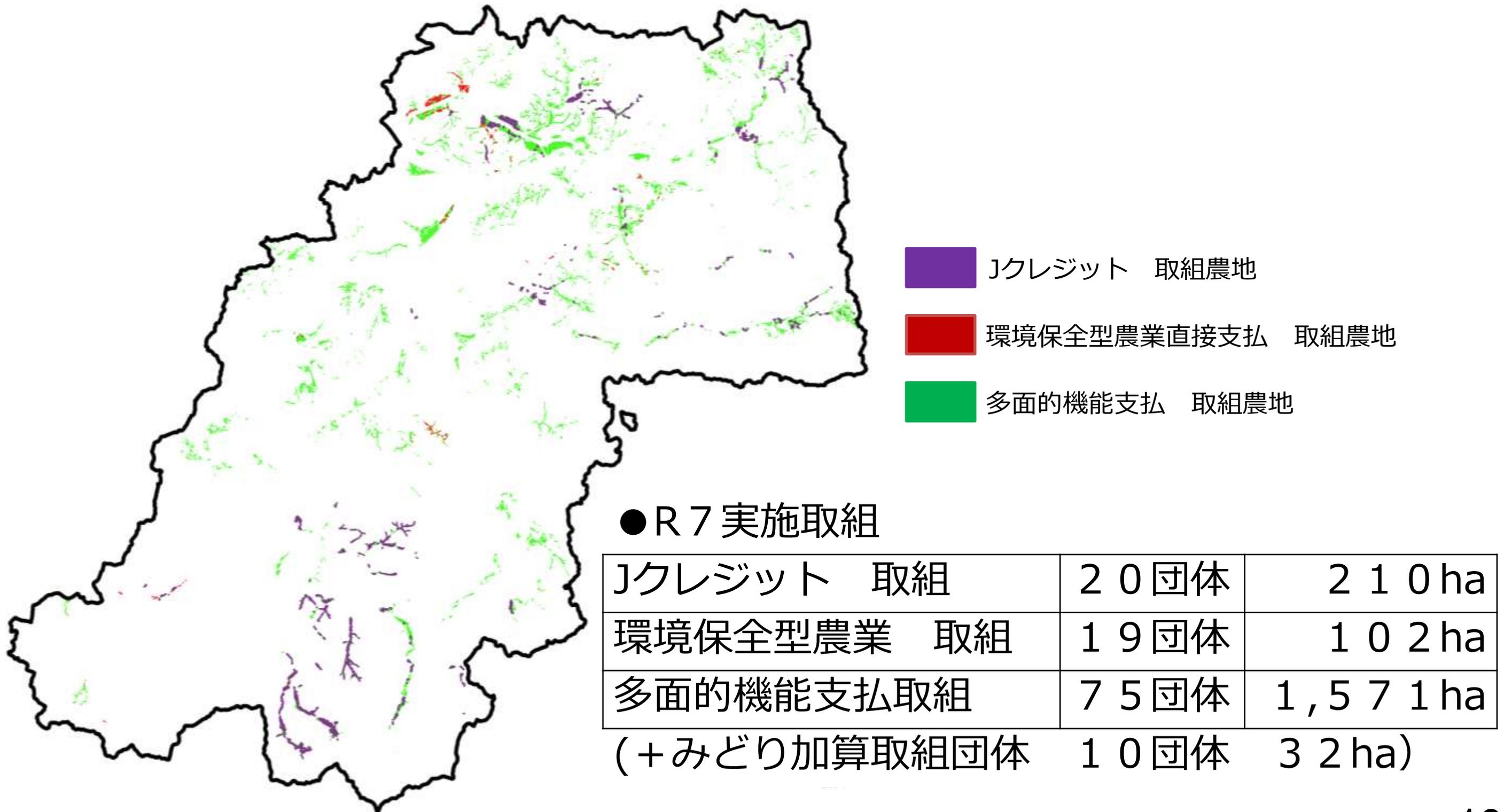
取組前（過去2年）の平均中干実施日数 + 7日間の中干しの期間延長

#### ●日本型農業直接支払制度（多面・<sup>13</sup>環直）における長期中干しの中干し期間

14日間以上の中干しの実施

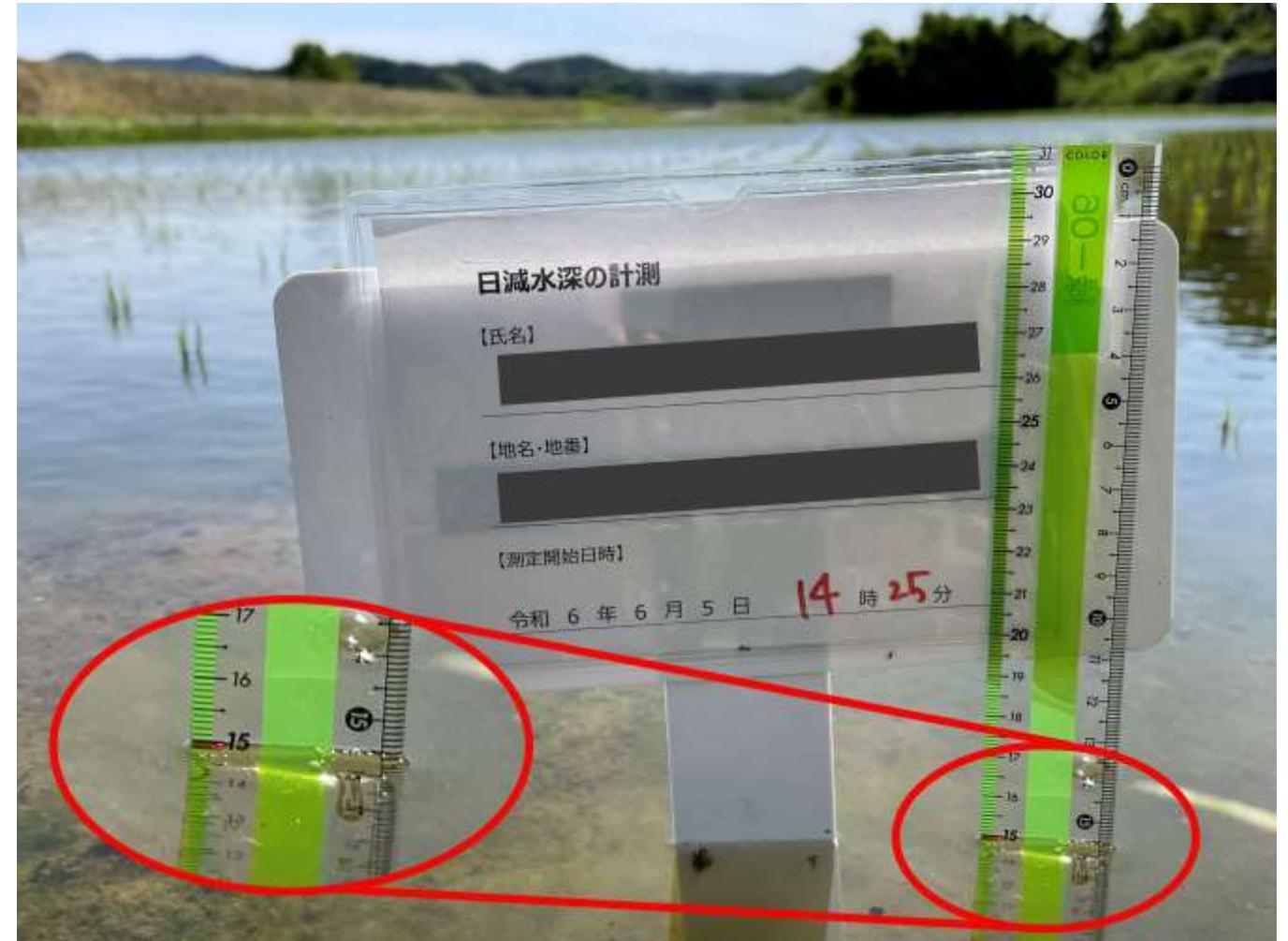
## 4. 中干期間延長の取組

### 雲南市における取組実績



## 4. 中干期間延長の取組

### 取組地域の一例



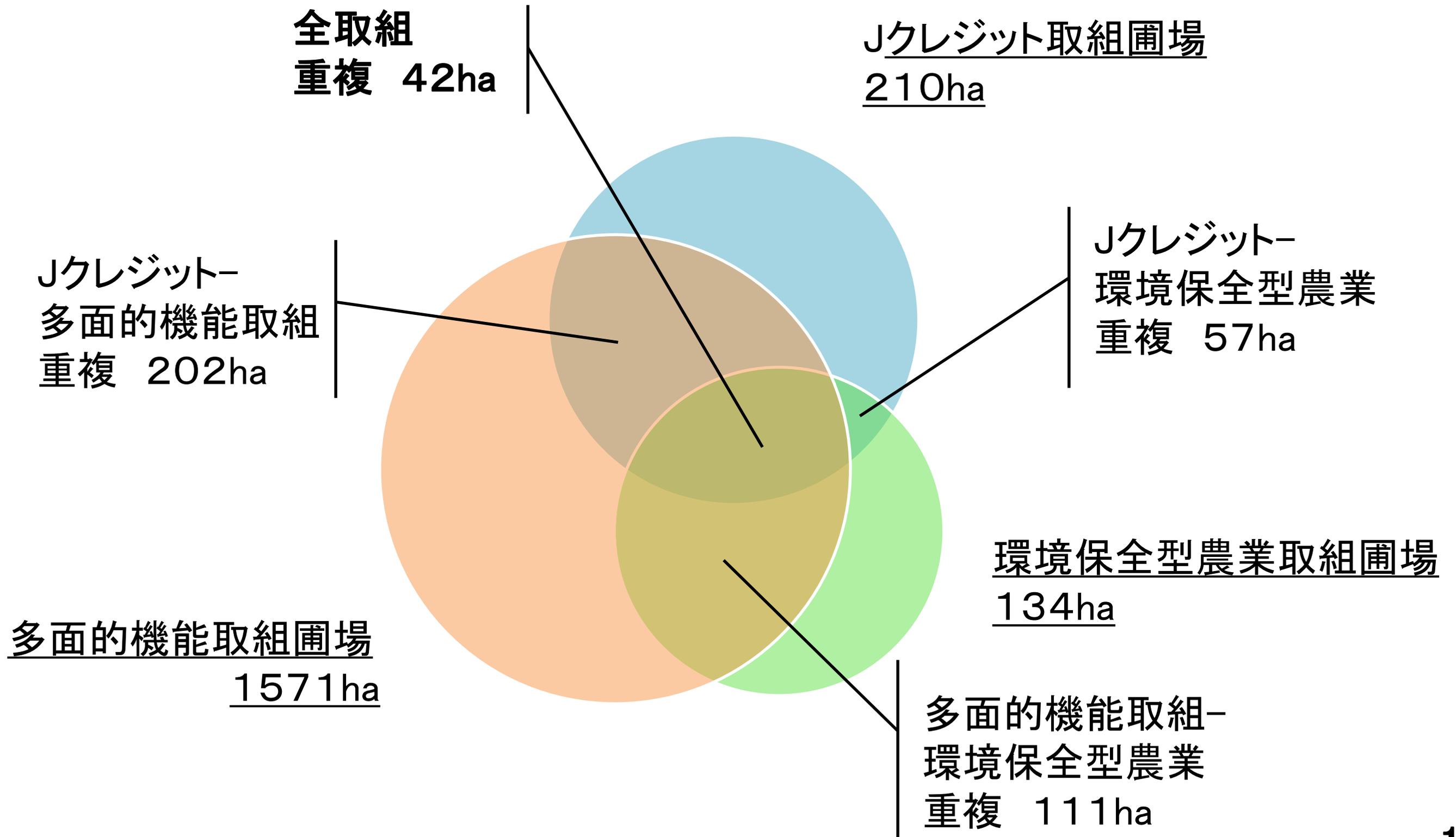
# 4. 中干期間延長の取組

## 取組地域の一例



## 4. 中干期間延長の取組

### 雲南市における3制度の取組状況



## 4. 中干期間延長の取組

---

### 今後の推進について

#### ● 農業分野におけるJクレジット方法論

家畜へのアミノ酸バランス改善飼料の給餌

家畜排せつ物管理方法の変更

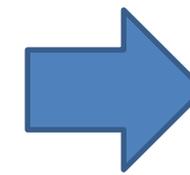
茶園土壌への硝化抑制剤入り化学肥料又は石灰窒素を含む複合肥料の施肥

バイオ炭の農地施用

水稻栽培における中干し期間の延長

肉用牛へのバイパスアミノ酸の給餌

牛への飼料添加物（暖気中の温室効果ガス削減に資するもの）を使用した飼料の給餌



環境保全型農用直接支払制度  
多面的機能支払制度

一体的に推進

